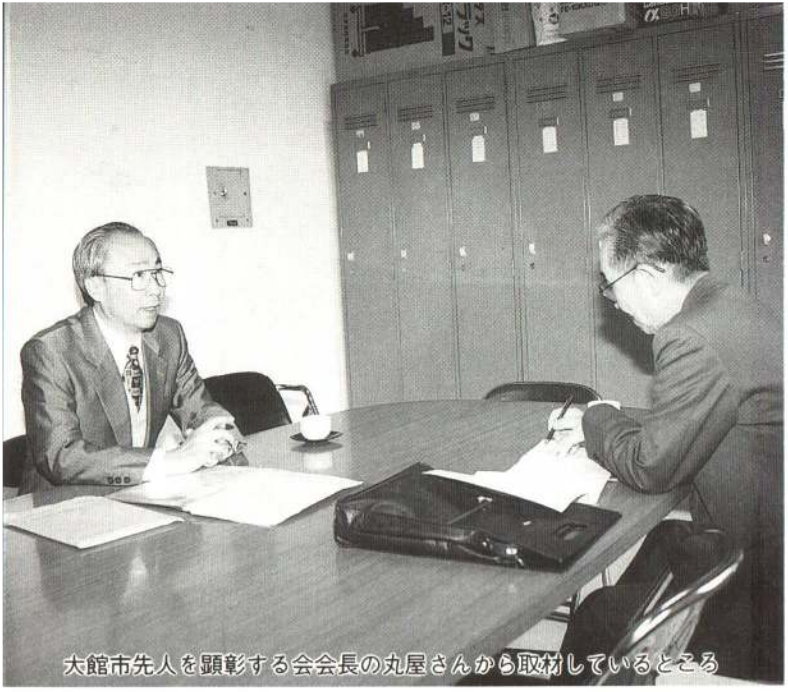
大館市の先人顕彰は


大館市先人を顕彰する会会長の丸屋さんから取材しているところ

する資料は時間の経過とともに収集が困難になるので、先人の研究調査も実施します。

Q．顕彰する人物を特定して研究調査を進めるのですか。

A．人物は特定しないで広く調査研究し、先人を発掘していきたいと考えています。将来的には「先人顕彰館」のような施設の建設も市に働きかけることも視野に入れています。

Q．会員はどんなメンバーですか。

A．小林多喜二文学碑建立の会が母体となっています。大館市及び周辺の元教師、医師、住職、神官、郷土史研究家、先人の顕彰に関心のあるかたがたで、現在百二十人の会員です。年内には二百人まで増やしたいものです。

Q．本年度の研究発表などの予定はありますか。

A．十月二十八日に「小林多喜二と小樽」と題した講演会を行いました。講師は、元教師の琴坂守尚氏にお願いしました。

取材を終えて

大館市には顕彰碑がいくつかあります。また、先人を研究しているかたも多くいると思います。今は、取材先がもっと別にあったのではと反省しています。そう思いながらも、私なりに考えた顕彰について述べさせていただきます。

郷土博物館へのお願い

現在展示している先人の研究発表会を開催していただきたい。市民の集まりやすい場所で、それに生家や生誕の地、顕彰碑などを訪れる実地研修も加えたら市民の関心も高まり、遺品や資料などの発掘にもつながるのではないでしょうか。

郷土博物館の顕彰コーナーの工夫

先人の業績などを書いたパンフレットを準備していただきたいと思います。また、小中学生の学習のためにテープレコーダーによる説明、もしそれが他のコーナーに邪魔になるのならイヤホン付きにするなどが考えられます。

大館市と研究グループとの連携

先人の顕彰発表会は先人を顕彰する会と共催としたらどうでしょうか。発表者も広く研究者を求めて行い、遺品や資料の保管場所、個人所蔵の遺品のリストを作り管理することが大切です。

§・§・§・§・§・§・§・§

最後に狩野良知、亨吉両氏の顕彰碑に書かれている概略を紹介します。この顕彰碑は市立図書館前にあります。親子連れで訪れてみてはいかがでしょうか。

狩野良知氏

（1829～1906）

三の丸（現在石田ローズガーデン）の地に生まれ、秋田明徳館から昌平校に学び、二十八歳のときそれまでの儒、兵、算学のほかに洋学を修めたという。久保田藩家老となるが明治維新後に内務省に出仕、明治十九年以降学問に専念した。吉田松陰の松下村塾から出版された「三策（さんさく）」はその考えをまとめた著作の一つ。ほかに「支那教学史略」などがある。秋田市の遐邇（かじ）新聞（魁新報の前身）は良知が名づけたものである。

狩野亨吉氏

（1863～1942）

狩野良知の二男。三十三歳で旧第一高等学校校長、四十一歳で京都帝国大学（現京都大学）初代文科学校長を務めた文学博士です。内藤湖南を大学に招いたり、安藤昌益の思想の論文を発表した。

中央図書館前の狩野父子の碑